

真に健康なひと

丸山 勉

〔聖書〕 ルカによる福音書 17章 11～21 節

イエスはエルサレムへ上る途中、サマリアとガリラヤの間を通られた。ある村に入ると、重い皮膚病を患っている十人の人が出迎え、遠くの方に立ち止まったまま、声を張り上げて、「イエスさま、先生、どうか、わたしたちを憐れんでください」と言った。イエスは重い皮膚病を患っている人たちを見て、「祭司たちのところに行って、体を見せなさい」と言われた。彼らは、そこへ行く途中で清くされた。その中の一人は、自分がいやされたのを知って、大声で神を賛美しながら戻って来た。そして、イエスの足もとにひれ伏して感謝した。この人はサマリア人だった。そこで、イエスは言われた。「清くされたのは十人ではなかったか。ほかの九人はどこにいるのか。この外国人のほかに、神を賛美するために戻って来た者はいないのか。」それから、イエスはその人に言われた。「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」ファリサイ派の人々が、神の国はいつ来るのかと尋ねたので、イエスは答えて言われた。「神の国は、見える形では来ない。『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ。」

〔序〕 教会は「神の国」のひな型

先週は来年度に向けての**定期総会**が持たれました。この一年間の主の導きを感謝しています。何より、川越教会を神様が愛して下さって、私たち一人ひとりがここに招かれていること自体が、ここに**神様の国のひな型**がかたちとなってここにあることを私は確信致しました。それは、規模は関係ないと思っています。「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる」（マタイ 18:20）とのイエス様の御言葉は確かです。恐れずに、感謝の中に、また**勇氣**をもってご一緒に進ませて頂きたいと思えます。今日の宣教の箇所テーマもそれにふさわしい箇所だと思います。その**テーマ**は「**神の国**」です。

〔1〕 重い皮膚病に患う者

私は中学生の時、一人で初めて見に行った映画で本当に心を打たれた映画がありました。しばらく席が立てないという経験とはこういうことかと思ったのですが、それは日本映画で、松本清張原作、野村芳太郎監督の『砂の器』という映画でした。ある殺人事件が起こるのですが、その殺人事件の背景には、社会的に排除され、お遍路のいでたちで放浪を余儀なくされる親子の姿がありました。その親がいわゆる「らい病」（ハンセン病）であったのです。周囲の人々や社会の偏見を身に受けたその親子の放浪の悲しい旅が、美しい映画音楽と共に描かれ、感受性の強い学生の時に見たということもあったのでしょう、今でも思い起こすと胸に迫ってきます。

新共同訳聖書の中にはしばしば「**重い皮膚病**」という表現が出てきます。以前は「らい病」と訳されてきました。この「らい病」という言葉は、ご存知のように現在は既に用いません。悪名高い「らい予防法」が1996年に廃止されました。でもまだ驚くことに廃止されて20数年です。FEBCで働く中、古い訳の聖書を朗読された方には「ハンセン（氏）病」と読み替えて頂いたことも時折ありました。ただ、聖書のこの病気が、所謂「らい病」或いは「ハンセン病」と全く同じかと言うとそうでもなさそうです。聖書に記されたこの病については、不明な点も多いのです。

しかし、かつてこの病を患った者は、体が變形し、くずれるという肉体の病もさることながら、「人間」として見捨てられるような絶望を身に負っていたと思います。日本でこの病気は、昔は「**業(ごう)病**」とも呼ばれていました。これは「不治の病」というのとは全く違ひまして、先祖とか、親とか、或いは前世の人物が犯した殺人などの深い罪が、まわりまわってひどい病となって現れるという、**古くからの輪廻思想**が作り出した考え方です。これはある見方からすれば「こんなにひどい病気にかかるのか、前世の因縁と考えるしか救いがない」という考えであったのが、いつの間にか「こいつはもう生まれる前から罪人なんだ。排除されて当然だ」という考え方にすり替ってしまったことが、この病にうつったら大変だという**偏見**と共にあったと思います。現在ではハンセン病は、抗生剤で完治する感染症であるということが判明しています。

旧約聖書の時代でも、この病を患うと、**共同体の「外」に置かれました**。当時はやはり重い病気は、何かしらの**罪の結果**であると思われていました。その者は「汚れた者」として、神殿の礼拝に参加出来ませんでした。それどころか、共同体の外の洞穴の様な場所で生きるしかなかったようです。但し、祭司が「あなたはもう清くなった」と認めてくれれば、一定期間の後、家族の許に帰ってくることは出来ました。しかし、それはひたすら奇跡を待つに等しいことだったでしょう。「もう自分の一生はこのまま終わるのか」と思っていたのではないのでしょうか。

[2] わたしたちを憐れんでください！

このルカによる福音書17章では、十人のこの病の者たちが主イエスによって癒して頂いたことが記されています。イエス様はガリラヤとサマリアの間を通られたとあります。そのある村での出来事です。ユダヤ人にとって**サマリア人**はユダヤ以外の血が混じった**異邦人**であり、忌み嫌われていたのですが、後で分りますが、**イエス様はその両者の病も癒されました**。このこと自体、**神の国の前触れ**と言っても良いのではないのでしょうか。しかもこの十人の病の者たちは、共に声を張り上げて「**どうかわたしたちを憐れんでください！**」と叫んでいます。病が心を結び合わせたのでしょうか、個人の叫びを超えた共同体の叫びがここにはあります。

それをイエス様は聞き逃しませんでした。それはイエス様が彼らを「**憐れまれた**」

つまり、本当に肝を痛めるほど愛の心に突き動かされたということです。そして、最も確かに社会復帰できる方法—祭司の所に行って、体を見せ、証明してもらうこと—を彼らに示したのです。彼らはイエス様のこの言葉をそのまま受け入れ、信じて祭司たちの所へ向かって行ったのです。「**言われた言葉を信じた**」のです。信仰とは、イエス様の言葉に賭けることです。その意味で、彼らは**十人ともその決断をした**のです。そして、不思議なことに「**彼らはそこへ行く途中で清くされた**」のです。

このことは、単に癒されて健康な者になったという意味以上のものがあります。彼らは、その病の故に神殿での礼拝に与れない、つまり「**神様の救いから漏れている**」と見なされていた**存在**です。その妨げとなっていた病が清くされたということは、**神様との交わりが回復出来るようにされた**ということです。人間本来の「**神のかたち**」の回復が、**イエス様のわざ**によってもたらされたということに他なりません。

そうすると、この物語は、重い皮膚病の癒しの物語を超えて、本来神様との交わりから絶たれていた者が、イエス様によってその交わりを回復して頂く（頂いた）物語、つまり、**私たちの物語**になるのです。ペトロの手紙— 2:10 にはこのような言葉があります。「**あなたがたは、『かつては神の民ではなかったが、今は神の民であり、憐れみを受けなかったが、今は憐れみを受けている』のです**」。そして、その前の 2:9 ではその目的を語っているのです。「**あなたがたは、選ばれた民、王の系統を引く祭司、聖なる国民、神のものとなった民です。それは、あなたがたを暗闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力ある業を、あなたがたが広く伝えるためなのです。**」

真の癒しは、癒しで満足することでは終わらず、このみわざを伝える者へと導く、ということですね。

十人の皮膚病の者たちは、皆、その祭司のところへ向かう途中で癒されたその事実気付いた筈です。しかし、そのことに驚き、神様を讃え、イエス様に喜んでひれ伏しながら感謝したのは**一人だけ**でした。私だったらどうだろう？ と問われます。長年苦しんだその原因である病が取り除かれるその喜びは本当に大きいものだと思います。祭司の所に行って、社会復帰をして、健康になって家族のもとに帰ってすっかり解決したと思っても不思議ではありません。…けれども、聖書はその先を私たちに迫っていると思います。

[3] イエス様が共におられるところが「神の国」

神様に救われるとは、何か病が癒されたり、課題が解決したり、何不自由ない生活を送ることができること、ではありませんよね？ たとえ、病をかかえていても、課題がなおのしかかっている、いろいろ思い悩むことがあっても、もし私たちがそのただ中で神様を賛美し続けることが出来たら、それこそ「救い」だと思いませんか

んか？ この一人イエス様の許に戻ってきた癒された人、しかも差別を受けていたサマリア人であったこの人は、「**大声で神を讚美しながら**」戻ってきたのです。靈的に生まれ変わった人は、**その存在から讚美が湧き出るのだ**と思います。それこそが「**魂の救い**」です。そしてそれは、一時的でない、**一生の喜び、継続する喜び**です。そして、それは自分が造り出せない喜び、正に聖霊のお働きですよ。

礼拝の初めの「招きの聖句」の、ヨハネ福音書 16:33 の主イエス様の宣言の言葉が響いてきます。「**あなたがたはこの世では苦難がある。しかし勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている**」。—このイエス様が共におられるところ、そこが「**神の国**」です。たとえ問題山積みのこの世であっても、です。ですからルカは、17:21 で、「**実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ**」とおっしゃいました。主は、**わたしがいることによって、あなた方の中にもう神の国が実現し始めている**ではないか、あなたの中に讚美が生まれているではないか？ と、私たちの目を上に向けさせて下さいます。

[4] 兄弟姉妹と共に立つ

最後に、今回私が気になったこととお話して終わりたいと思いますが、それは、この一人のサマリア人である皮膚病だった者がイエス様の許に賛美しながら戻って来た時に、イエス様は「**ほかの九人はどこにいるのか**」と言われました。…これは、戻ってこなかった九人をいぶかしく思った言葉なのでしょうか？一面、もしかしたらイエス様の心は失望感を覚えたと言えるのかなとも思いますが、私はそれ以上に、この癒されたサマリア人の**これからの為の言葉**だったのではないかと思うのです。

…私たちには、**信仰の仲間、信徒の交わり、つまり「教会」の存在**ということがどれだけ大きな力、慰め、また支えになっていることでしょうか。教会生活を送っている方は皆、そのことを肌で体験されていることと思います。信仰は、確かに、神様・イエス様との個人的な一対一の関係です。しかし、それは**孤独なものではなく、交わりの信仰**です。キリスト教信仰の本質は、**交わり、ギリシア語でエクレシア、一緒に主を見上げて生きる**ことです。

この癒された病人も、元は**十人の共同体**を作っていたわけですよ。ユダヤ人もサマリア人も**一緒に**です！ もし帰ってこなかった九人の中で何人かでも、いや一人でも戻ってくれば、それはどんなに今後の信仰の歩みに力を与えられたことでしょうか！ それこそ「**二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる**」とイエス様はおっしゃっていますから、それは、**信徒の交わりである「教会」**が出来るといことです。しかも、**同じ痛みを共有する者同士**ですから、それはとても素晴らしい教会になるに相違ありません。イエス様はそのことを期待していたのではないかと思うのです。

『共に生きる生活』という、よく読まれている D・ボンヘッファーの本があります。ボンヘッファーが、ドイツのフィンケンヴァルデの牧師研修所所長であった時に、若い牧師研修生たちに向けて書かれた本ですが、その初めの方に、私たちは独りではなく、他の信仰の仲間の必要性ということを、このように綴っています。

『キリスト者は、心が動揺し、気落ちしている時は、いつも、他のキリスト者を必要としている。というのは、彼は自分では自分を助けることができない。彼は、自分のみ言葉の担い手、宣教者としての[ほかの]兄弟を必要とする。…自分の心の中のキリストは、兄弟の言葉におけるキリストよりも弱いのである。前者は不確かであり、後者は確かである。したがって同時に、全てのキリスト者の交わりの目標は明らかである。すなわち、キリスト者は、救いのおとずれを持ち運ぶ者としてお互いに出会うのである。このようなものとして、神はキリスト者たちを集め、彼らに交わりを賜るのである。』(P. 10)

本当にそうだと思います。私たちは、私はいつでも自分本位の信仰になってしまうのです。自分の尺度を、いつしか一つしかない定規のようにしてしまいます。けれども、主は生きておられます。その人その人に、自由に語って下さいます。その自分以外の人たちによる、信仰から生まれる、ふとした一言にどんなに慰められ、力づけられることがあるのでしょうか！

ある人が言いました。私たちがやがて神様の前に立つ時、それは決して一人ではないのだ、と。兄弟姉妹と共に立つ。あの人この人と一緒に立つ。「神様の国」というのは、イエス様がご支配される国ですから、私たちのちっぽけな頭や理解をはるかに超えた大きさと広がりを持っているものだと思います。

[結] 真に健やかにされた者として

そうであるとしたら、私たちは、現在の信仰生活が本当に大切なのだと思います。復活されたイエス様は、弟子たちに聖霊を注いでおっしゃいました。「あなた方に平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなた方を遣わす。だれの罪でもあなた方が赦せば、その罪は赦される。だれの罪でもあなた方が赦さなければ、赦されないまま残る」(ヨハネ 20:21, 23)。神様は私たちを、変えて下さる、いや、神様のわざに参与するように、御栄えを現わす者へと変えて下さったのです！

私たちも、あの重い皮膚病を持つ者と同じ、神様との関係を絶たれていた存在だったのです。けれども、今やイエス様の身代わりの死によって、その関係を回復させて頂きました。十字架によって。私たちは、先ほどの第一ペトロで言っているように「暗闇の中から驚くべき光の中へと招き入れて」頂いた者同士です。それは、自分では解決できない重い皮膚病を、ただ憐れみによって癒して頂いたのと同じことが起こりました。イエス様はこのサマリア人におっしゃったのです。「立ち上がって行きなさい。あなたの信仰があなたを救った」(17:19)と。彼の信仰を喜び、励ましておられます。「行きなさい！」。救いとは、この罪や不信仰の世にありながらも、大胆に神様を賛美し続けること、何度でもイエス様の前にぬかずき、罪と不信仰を告白して

赦して頂いて、また立ち上がっていくことではないでしょうか！ 真に癒された者、真に健やかにされた者として！

もうじき、新しい年度を迎えます。新しい年度も、与えられているこの川越教会の信仰の交わりの中を歩ませて頂きたいと思います。ご一緒に讃美を捧げながら。

お祈り致します。

主イエス・キリストの父なる神様、今日の礼拝を感謝致します。

私たちも病んでいる者です。自分では自分を癒すことが出来ません。けれども、あなたは私たちの罪という病をご自分に引き受け、わたしたちを清くして下さいました。

今、レント、受難節の時を教会は過ごしています。あなたの十字架の深い愛をもっと知る者として下さい。そして、感謝と讃美のこころを増し加えて下さい。

あるがままの私たちが、あなたの栄光を表す存在として受け入れられ、また一人ひとりのユニークさをお用いになって、あなたは「神の国」を実現されるお方です。

どうぞ、与えられている日常に、あなたの導きと助けを与えて下さい。そして、信仰の仲間と共に、祈りあい、支え合う喜びの中に、新年度も歩ませて下さい。

救い主イエス・キリストのお名前によってお捧げ致します。

アーメン。